



特集1 県大コラボ

盛岡大通商店街・肴町商店街の 店舗経営を熱烈サポート

〔総合政策学部 山本研究室〕

期待される新たな発展への取り組み

認証評価受審

社会福祉学部主催・リカレント教育シンポジウム開催

岩手県立大学社会福祉学部では、平成19年度から文部科学省委託事業として「コミュニケーション教育・研修プログラムの開発・実施」事業を実施しています。今回、その一環として、コミュニケーション教育・研修プログラムへの理解を深め、教育・研修への参加啓発を目的として、県内の民生委員・児童委員など地域で活躍する方々を対象にシンポジウムを、1月10日、盛岡地域交流センター(マリオス)において開催しました。テーマは、「リカレント教育の楽しさに触れる『コミュニティの中での相談支援と人材養成シンポジウム』」。



花巻新空港でUDを考えるワークショップ開催

3月17日、4月から利用がはじまる「いわて花巻空港新ターミナルビル」のユニバーサルデザイン(UD)を視察する空港ビル主催のワークショップが開かれました。社会福祉学部狩野教授は、障害をもつ空港利用者の声を反映させるワークショップに参加し、UDの専門家としてアドバイスを行っています。



新学長に中村慶久氏

本法人が設置・運営する大学(1大学 2短大)の学長の任期が平成21年3月末で満了することに伴い、学長選考会議(議長:伊藤憲三副学長)において次期学長候補者についての選考・審議が行われておりましたが、このほど、中村慶久氏が次期学長に選考され、平成21年4月1日に就任します。



□中村 慶久(なかむら よしひさ)氏略歴
67歳(昭和15年11月生まれ)岩手県立盛岡第一高等学校卒業、東北大学大学院工学研究科博士課程修了。東北大学教授を経て現在は(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ宮城 館長。東北大学名誉教授。工学博士(専門分野:電子工学・情報記録工学)。
任期:平成21年4月1日から平成25年3月31日までの4年

第56回日本生態学会大会開催

3月17日(火)~21日(土)、本学において、第56回日本生態学会大会が開催されました。参加者数約1800人、発表約1400件を越える盛大な大会となりました。ポスター発表数は、約860件。多数のポスターパネルが学部棟をつなぐ廊下に並び、大会の盛り上がりを見せていました。



□第56回日本生態学会大会 会長
由井正敏教授(総合政策学部)
地球温暖化や里地里山の衰退など、生態系に大きな影響を与える多くの課題について真剣な発表討論がなされ、非常に有意義な大会となりました。本学から外国研究者招聘費など絶大な支援を受け、本学始まって以来最大の全国大会を円滑に開催実施することができました。

平成20年度高大連携「ウインターセッション」開催 学問とは何か？ 大学で学ぶ魅力とは？ 一人ひとりの探求心が、 学びの世界の扉を開くのです！

平成20年度高大連携「ウインターセッション」が、12月25日（木）、26日（金）の2日間にわたって本学において開催されました。高校生にとって、大学を身近に感じることのできる絶好の機会であり、大学にとっては、各学部の魅力をアピールできる機会でもあります。当日は、県内高校生186名が参加。看護学部、ソフトウェア情報学部、社会福祉学部、総合政策学部、共通教育センターの5つの学部プログラムに沿って、それぞれ特色ある講義が行われました。



安藤広子教授の講義テーマは「看護学ってなあに？」（看護学部）

□副学長基調講演「大学で何を学ぶのか」

開催初日、本学大講堂に一堂に会した参加者は、幸丸政明副学長の基調講演を聴講しました。テーマは「大学で何を学ぶのか」。高校生にとっては、最も関心あるテーマであり、大学で学ぶことの意義を直接大学教員から聞く初めての機会となりました。

副学長は、「教えられたことを吸収するのが生徒だとすれば、教えられたことに疑問をもち、学びを深めて、課題を追求するのが学生です。大学では、学生と教員の共同作業により学びの体系が作られていくのです」と語り、「大学で何を学ぶのか」は、一人ひとりの探求心によって明らかになるのだと高校生に語りかけていました。



自ら学ぶ大切さを語りかける幸丸副学長

ウインターセッションとは ウインターセッションは、平成15年度から実施しており、高校生に大学の高度な教育・研究に触れる機会を提供し、個々の能力や適性の伸長を図るとともに、大学に対する理解を深めさせることを通じて、高校と大学の円滑な連携に寄与することを目的としています。冬休みの期間を利用し、各学部が設定したテーマについての講義、演習、受講生による全体発表を内容として行われます。



イスラムの日常について講義する見市建講師（総合政策学部）

□プログラムの主な内容

看護学部

「生まれるいのち、育ついのち」
今回のウインターセッションでは、「いのち」について考えることをテーマとしました。自分自身のいのちを実感し、人間の生命や尊厳について考える機会としました。



心と身体をほぐす自己紹介ならぬ他己紹介に思わず笑顔が

社会福祉学部

「共に生きるために～社会福祉の課題を学ぶ～」
プログラムでは、支え合い、分かち合い、心身ともに豊かなバランスのとれた共生社会とは何かを共に考えました。「気づきを学びにWorkshop」は、高校生に大好評。



「気づきを学びにWorkshop」の発表会

ソフトウェア情報学部

「コンピュータにゲームを対戦させる」
演習では、単純なルールの二人確定不完全情報ゲームについて、次の手を決定するソフトウェアをプログラミングし、ソフトウェア同士を対戦させました。



講義の最後に学部内の発表会が行われました

総合政策学部

「事件から学問へ～総合政策のアプローチ～」
大学では日常の中で起きる「事件」を研究対象とすることがあります。今回のプログラムでは、様々な「事件」に対する総合政策風アプローチについて紹介することにしました。



講義資料を熱心に読み込む高校生

共通教育センター

「異文化理解の第一歩
～様々な国の言語と文化を学ぶ～」
国際的な体験について、特に「言語と文化」という視点から再考し、さらなる異文化理解を深めてもらうことを目的としました。



最後に全体発表会が行われました

【プロジェクトメンバー】

- 産 盛岡大通商店街協同組合
盛岡市肴町商店街協同組合
さわや書店、ほっといわて
- 学 岩手県立大学
- 官 盛岡市
- コーディネーター
岩手県中小企業団体中央会
- アドバイザー
中小企業診断士 宮 健



【総合政策学部 山本研究室】 特集1

町商店街の店舗経営を熱烈サポート

LinkWeb IPU 岩手県立大学では、教育・研究のテーマの一つに地域貢献を掲げています。
学びのフィールドを地域に求め、学びの成果を地域に活かす取り組みを、
県大と地域のコラボレーション（共同作業）として紹介します。

商店街活性化のために 学生の視点から改善提案

総合政策学部の実習科目「経営分析実習」（山本健講師）のフィールドワークとして、3年次の学部生3人（熊谷歩、西沢翔、渡邊直喜）が、店舗経営改善のための経営計画提案とその実践に取り組みました。実習科目のフィールドワークであるだけでなく、岩手県中小企業団体中央会「商店街先進的経営支援事業」の一環としての実践活動です。舞台は、盛岡市の中心市街地である盛岡大通商店街と肴町商店街。

大通商店街の「さわや書店」、肴町商店街の「ほっといわて」の両店舗に学生を受け入れてもらい、聞き取り調査、提案した改善計画の実行と検証に協力をいただきました。

岩手県中小企業団体中央会、盛岡市、経営コンサルタントの宮健氏の支援や助言の下に、昨年の10月から5ヶ月間にわたる活動を展開、関係者間で熱い議論が交わされました。

県大生の意欲が 店舗の元気に繋がったと 高評価をいただきました

3月4日、学生による経営分析と提案した改善点の効果実績を発表する成果報告会が開かれ、事業の総括として、事業のアドバイザーである宮さんの評価をお聞きました。

「学生のアドバイスによって、やれることを実行した効果は大きい。学生の提



岩手県中小企業団体中央会
統括指導センター主事
赤間 文孝さん

雇用の場を創るくらい
の
意気込みに期待します！

市街地活性化に役立つ経営支援計画の作成と実行という難題に、挑戦しようという学生の熱意と意欲が伝わってきました。学生は、机上にはない、既存の固定観念にとらわれない生の声を聞いたはず。それぞれの店舗への提案が、営業実績として効果を上げていったのは、現場の声を活かすことに真剣に取り組んだ結果だと思います。

学生のみなさんと一緒に活動するうちに、県大生への期待がふくらんできました。正解を意識せずに、いろんなことを感じてほしい。真面目であるだけでなく、魅力ある学生であってほしいと思います。そして、自分に何ができるか、県大は何ができるのかを問い続けてほしいと思います。それはやがて、大学による雇用の場の創出につながるのではないのでしょうか。そうであってほしいと期待しています。



盛岡大通商店街・肴

熱い思いはみな同じ。左より山本講師、西沢さん、赤澤社長、熊谷さん、宮さん、渡邊さん、赤間さん



ありがとう県大生

株式会社さわや書店社長 赤澤 桂一郎さん

中心市街地に本屋がなくなったら文化の衰退という思いでやってきた。自分の目で自分の姿を見る事はできません。今回、学生の皆様に見ていただいた事は非常にありがたいことだと思っています。気づいていなかったこと、気づいていただけれど、やっていなかったことなど、外からの意見は非常に新鮮でした。



手書きPOPの拡充を通して書店員の意識に変化が(さわや書店)



映画化作品や今週のベスト5の棚を提案。波及効果として、映画館との提携(割引チケット配布)などの新しい流れも出てきた(さわや書店)

案を受け入れて、効果が出ている事柄もある。県大生の熱心な取り組みが、従業員の意欲づけにつながった面もあった。経営に限ったことではないが、情熱を失った後には何も残らないことを知ってほしいのです」

県大生の意欲が、店舗の元気につながると高評価をいただきました。

期待される 新たな発展への 取り組み

? 1 認証評価は 何を評価するのか

認証評価は、大学が掲げる理念・目的・教育目標を達成するために、大学がどのような努力を払っているか、それがどの程度達成されているかという観点から審査します。審査の対象は、教育・研究活動、学生生活への配慮、社会貢献、施設・設備、管理運営など大学全体にわたっています。

? 2 認証評価は どのように行われるのか

認証評価を受審する大学は、自己点検・評価を行い、「現状の分析」「目標達成のための改善方策」などをまとめた報告書を作成します。

大学基準協会は、報告書の審査に加えて実地視察を行い総合的に評価します。

大学基準協会の評価者は、現職の大学教職員を中心に構成されており、大学の教育・研究活動に携わっている大学教職員が、専門的な知見・識見を駆使することで、評価の的確性を確保しています。

? 3 認証評価は どんなメリットがあるのか

認証評価を受審するにあたっての自己点検・評価の過程及び認証評価結果により、自分たちの「現状」「長所」「改善を要する点」を明確にすることができます。

認証評価によって明らかになった課題について、今後とも継続して改善に取り組んでいくことが重要です。

【新たな発展への取り組み】

認証評価結果においては、長所であると評価された事項がある一方、改善を要すると指摘された事項もあります。

今後は、「長所」については更に発展させるとともに、「改善を要する事項」については、その指摘を真摯に受け止め、「新たな発展」のために、今後とも教育・研究のさらなる向上に取り組んでいきます。

学校教育法の規定により、全ての大学・短期大学は、文部科学省が認証する評価機関による評価（認証評価）を受けることが義務付けられています。

岩手県立大学、盛岡短期大学部、宮古短期大学部は、平成20年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、それぞれの大学・短期大学が、大学基準協会が定める大学基準に適合していると認定されました。

認定マークは、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、社会に対して大学の質を保証していることを象徴しています。



岩手県立大学



盛岡短期大学部



宮古短期大学部

認証評価結果 (抜粋)

岩手県立大学

総評

「建学の理念」及びこれに基づいた「大学の基本的方向」を明確にして、教育研究の特色を打ち出す努力がみられる。

平成17年度の法人化を受けて、現在は大学改革に向けてさまざまな制度や体制を整備している段階にあるので、今後それらの成果が大学の発展に繋がることを期待したい。

■長所であると評価された主な事項

1 きめ細やかな教育指導

少人数教育体制の中で、各教員は毎週1コマをオフィスアワーとして設定していることや、新入生を対象とした全体及び学部別のオリエンテーション、在学生用の履修ガイダンスによる履修指導を行っているなど、総じてきめ細やかな教育指導が行われている。特に、ソフトウェア情報学部では、1年次から学生を研究室に配属する小講座制をとっており、情報教育やコミュニケーション能力を養うことを重視して、履修指導をはじめ丁寧な教育を行っている。

2 学生生活のサポート

健康サポートセンター、学生相談室、クラス担任制に加え、学生が相談員となる「ピア・サポート」を平成19年度から実施するなど、相談体制の多様化を図っている。こうしたきめ細やかな支援は、退学者の少なさにおいても効果が表れており、評価できる。

3 社会貢献の実績

ソフトウェア情報学部を中心とした、産学官交流シンポジウム開催などの産学連携の取り組みや、総合政策学部を中心とした、審議会委員としての参画などによる自治体・NPOとの連携活動をはじめ、各学部の特性を生かした、社会貢献・地域貢献を実施し、実績を挙げている。また、公開講座における地域貢献も効果的に実施されている。

4 学習活動支援体制の充実

看護学部においては実習助手2名を含めて15名の助手を配置し、社会福祉学部でも実習講師6名を配置するなど、学生の学習活動を支援する体制が充実していることは評価できる。

5 施設・設備の充実

サテライトキャンパスを含めてすべての講義室にAV機器が整備され、視聴覚教材を利用した講義を可能にしている。また、すべての教職員と学生が情報システムを利用できるように情報端末が整えられており、教職員及び在学生を対象としたアンケート結果において、70%以上が情報化の対応に満足していることは評価できる。

■改善を要すると指摘された主な事項

1 教育改善に向けた組織的活動

教育改善に向けたファカルティ・デベロップメント(FD)活動の環である、学生による授業評価については、授業改善に向けた結果の活用が教員個人に委ねられているので、組織的な取組みを実施することが必要である。

2 国際交流の推進

「大学の基本的方向」の一つとして「国際社会への貢献」を掲げているが、国際交流の実績が乏しいので、国際交流を積極的に推進していくための組織的な取組みが望まれる。

3 学生数の確保

大学院においては、定員に満たない研究科があるので、大学院学生数を確保するための具体的な改善策を立てることが望まれる。

4 外部資金の獲得について

全体的に科学研究費補助金の申請件数・採択件数が少ない。今後は、外部資金の獲得に向け、研究活動をさらに活性化させることが望まれる。

盛岡短期大学部

総評

「実学・実践」をキーワードにした教育・研究に努めている点に特徴がみられる。特色ある取組みとしては、地域貢献を視野に入れた総合的研究として「学部プロジェクト」

「クト」を短期大学部全体で実施していること、また、国際文化学科において、自己表現・日本語運用能力(PCS)と他者理解・英語運用能力(GCS)を身に付ける総合的プログラムを実施していることが挙げられる。

■長所であると評価された主な事項

1 正課外教育の充実

国際文化学科では、「リスニング・マラソン」「リーディング・マラソン」を実施するなど、学生の英語リスニング及び読解能力の向上を図る正課外教育が充実している。「リーディング・マラソン」では、読破した文献の返却時にネイティブスピーカーの教員による読後感想を英語で表現する指導も行われており、優れた取組みとして高く評価できる。

2 教育方法の工夫

両学科ともに、多くの実践的な授業が少人数で行われており、またマルチメディア教材の活用にも特徴が見られる。特に、国際文化学科における「国際文化理解演習Ⅱ」(海外研修)では、研修の事前・事後にID(異文化理解能力調査)を実施して効果を測定し、学生の学習意欲の触発や向上に多面的な効果をあげている点は、評価できる。

3 就学援助の充実

人材育成に寄与するため、成績優秀者を対象に独自の奨学金制度を整備し奨学金を給付している。授業料免除制度などとあわせ、学生に対する経済的な就学援助は充実しており、評価できる。

■改善を要すると指摘された主な事項

組織的なFD活動の実施

短期大学部独自のFD活動としては、過去に教員の意識調査を実施した程度であり、独自の取組みはほとんど行われていないので、組織的なFD活動を活発に行うことが望まれる。

宮古短期大学部

総評

2年間の教育課程は、生涯にわたる学習のファースト

ステージと位置づけ、学生の意欲を育てるため「オフィスアワー」を核とした「エンカレッジ教育」を運営の中心に据えて、学生が主役となる教育を実施しているところに特徴が見られる。

今日まで県内を中心に金融界などの各種業界に多くの優れた人材を輩出しており、三陸沿岸地域における高等教育の拠点として、果たす役割は大きい。

■長所であると評価された主な事項

1 きめ細やかな学習支援体制

全教員が参加する新入生オリエンテーション・キャンパス、15回の授業のうち5回ごとに行う学生の出欠状況調査、成績のチェックと助言サポートシステムなど、きめ細やかな学習支援体制がうまく機能しており、それが留年者や退学者の少なさ、就職率の高さなどに表れていることは評価できる。

2 適正な学生選抜方法

教育目標を達成できる人材を確保するための各選抜試験は、アドミッション・ポリシーを的確に反映しており、それぞれの試験に際して総合的にみた基礎学力、学習意欲と専門領域への高い関心、専門領域への適合性、大学生活を送る上で必要な社会性などを評価し、求める人材像に適した学生の選抜を行っていることは評価できる。

■改善を要すると指摘された主な事項

研究活動の活性化

科学研究費補助金の採択件数、申請件数ともに減少傾向にある。科学研究費補助金をはじめ、学部資金を獲得する目標を実現するために、研究活動を活性化させる具体的な方策を検討することが必要である。

※認証評価結果の詳細については、大学ホームページにおいて公開しています。

Link Web IPU

谷口学長退官のことば

充実の4年間をふりかえって

最初に、学生の皆さん、教職員ならびに県立大学関係者、そして岩手県知事をはじめ岩手県民の皆様に、充実の4年間を与えていた

いただきましたことを感謝したいと思います。

私は、増田前知事より学長就任の依頼を受けた際に、岩手県は、新渡戸稲造、後藤新平等優れた人材を輩出した県であり、人材教育のためにはいい機会だと思ったことを記憶

県大生よ「自信をもって未来へ！」

しています。同時に、県立大学が開学時に掲げた5つの理念の中で、重要なのは「人材育成」と「地域貢献」であることに注目しました。人材教育と地域貢献とは、今もって変わらぬ県立大学の大きな教育理念であり、その点においてこの10年間の実績は讃えられてしかるべきものと考えています。

私にとっての4年間をふりかえると、最後の1年が最も充実した時間だったのではないかと思われます。6月19日の開学10周年

記念式典をはじめりとして、全学をあげて記念事業を無事遂行することができました。10月29日には、大学祭に合わせ、同窓生ホームカミングデイが開かれました。同窓生の寄付によって弓道場ができることも決まっています。学舎を巣立ち立派に成長して社会に活躍する同窓生の姿に、感涙を抑えることができませんでした。まさに、優れた人材育成の成果ではありませんか。

私は、就任当初から、どうすれば良い大学となるのかを自分の課題としてきたつもりです。実学実践を掲げる県立大学にとって良い大学であることは、地域にとって価値ある大学であることであり、「地域貢献」は大学の最大の使命であると考えています。

今日のグローバル化の中では、ソフトウェアでも看護でも社会福祉でも、環境でも、国際的なノウハウを持っていなければ、本当の意味の実学実践はできません。世界のスタンダードを知らないとは本当の意味での地域貢献はできないのです。地域化と国際化は二律背反ではありません。そのため、学生の皆



谷口学長在任中の主な出来事

- 05年 4月 公立大学法人岩手県立大学設立・谷口学長就任
 - ◇ 全学プロジェクト研究開始
 - ◇ 8月 岩手県知事が法人の中期計画認可
- 06年 4月 アイーナキャンパスがオープン
 - ◇ 5月 第一回国際講演会「明石康氏」
 - ◇ 7月 紫波町と包括的連携協定締結
 - ◇ 9月 NEASE-Netの第一回フォーラム開催
- 07年 6月 岩手看護学会設立総会
 - ◇ 10月 中国・韓国の留学生、初めての秋の入学式
 - ◇ 開学10周年記念シンポジウム
- 08年 2月 地域連携研究センターに「盛岡市まちづくり研究所」設置
 - ◇ 川井村と包括的連携協定を締結
 - ◇ 4月 学生ボランティアセンター開設
 - ◇ 6月 岩手県立大学開学10周年記念式典・記念事業展開
 - ◇ 10月 財団法人大学基準協会認証評価受審



温かい心と夢をもって 未来へ進もう

私の講義に参加した学生であれば知っていることと思いますが、90分の授業で30分のディベートを試みたことがあります。学生は、

さんには「think globally, act locally」を常に意識するように伝えてきました。世界的な視野をもって、地域に活動することこそが地域貢献であると。

県大の地域貢献については、うれしいニュースがありました。昨年、11月28日付の日経新聞東北版に、大学選択における新たな指標という特集記事の中で、「時代のニーズに即した学部・学科がある」大学として北海道・東北圏内において県大が10位以内にランクインしたことが報じられたのです。

世界に開かれた広い視野をもち 東アジアとの交流を深めよう

学長退任記念講演会

県大での谷口学長による講義としては最後となる学長退任記念講演会が、1月20日、本学大講堂で開催されました。テーマは、『東アジア共同体と日本』。講演会は、広く一般市民にも開放され、本学学生や教員とともに約700人が聴講しました。講演は、同時中継により宮古短期大学部にも配信され、約120人の学生が聴講しました。



素晴らしく身だしなみもいいし、私語も少ないし、何より真面目です。しかし、自分の意見をみんなの前で発表するとなると、意外と控えめですね。多くの偉大な逸材を出している県なのに、なぜ、今の学生が、いささか内向き指向になるのかと心配です。大学は、自分が何をしたいか、人生で何ができるか、適性を見いだせれば一番幸福です。合わない仕事をやることほどつらいことはありません。自分が何を望み、どんなことを目指して生きていくのかを選択しなければならぬときが誰にでも必ずやってきます。その時、自分の考えを明確にできるかどうか、伝えたい人にしっかり伝えられるかが問われます。大いに悩み迷っているのです。学生時代には勉強だけでなく、様々な経験をすることが大切です。学生の自分である学びの精神をもって、自己の感性を信じ、様々な活動に挑戦し、自分の



学長退任パーティーが3月17日に開かれました。これからは、岩手での人材教育に役立ちたいと、教育への情熱つきない思いを語る谷口学長を囲み、笑顔のたえない和やかなパーティーとなりました

考えを発表してください。自信を持って、自分を語る人になってください。自信を持って夢に向かって進んでください。

私自身は、今が最も人生の中で充実した時を迎えています。本当の仕事は70歳になってからだだと思います。「気力・体力・仕事」が最近のモットーです。新たな試みとして、岩手県で『新渡戸国際塾』の開設を予定しています。長年温めていた構想であり、岩手の皆さんとともに共に学び、共に世界を考えたいと思っています。

イギリスの経済学者であるアルフレッド・マージナルは、「クールヘッド・バット・ウォームハート（冷静な頭脳と温かい心）」を持ってと言っています。私の好きな言葉です。地域において世界を考える試みに欠かせない態度です。また、県大の新たな時代への指針となる言葉として学生の皆さんに捧げたいと思います。

学才浪漫 学びを究める

Professor's Voice

仕事人が育て、人が仕事を拓く

●ソフトウェア情報学部教授 澤本 潤

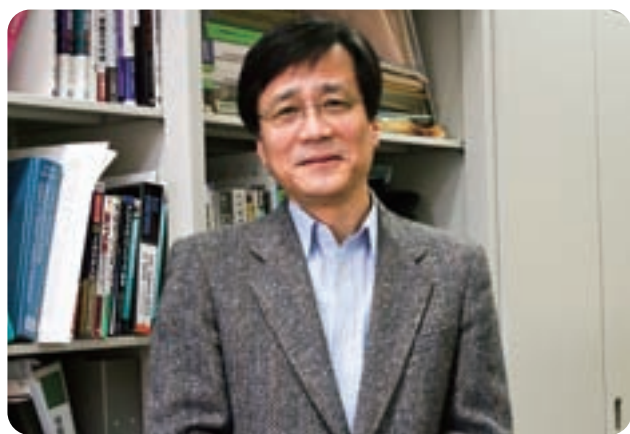
澤本教授には、企業エンジニアとして活躍していた時代があります。企業のコンピュータシステム製作所で産業用計算機の開発に従事し、計算機ソフトウェア(コンパイラ)等の基本ソフトウェアの設計・製品開発を担当していました。その間、米国留学やシリコンバレー駐在を経験しています。

「留学時代は、本当にコンピュータサイエンスの勉強に集中しました。真剣でした。シリコンバレーでは、開発したソフトの販売も行っていますが、アナリストという専門家に評価されなければソフトは売れないのです。厳しさを実感しました」

常に最善最良を求められる最先端の現場の開発スピードについていくのは大変だったといいます。澤本教授が、学生を指導する際、「社会に出て働くことに対する自信を身につける」こと

に重点を置いているのは、企業人として働くことの実際を伝えたいという思いがあるから。「仕事人が人を育て、人が仕事を拓く」が信条です。「企業が求めているのは、自発的に問題を見つけておくこと。さらには、コミュニケーション能力を養うことが必要です。教師である私のリーダーシップも大切で、学生のやる気を引きだし、学ばなければならない指導を行わなければなりません」

専門の研究領域では、社会のために役立つことを常に意識しているという澤本教授。エリアメールの津波警報への適用に関する研究は、陸上警報とともに海上への迅速な警報を可能とするもので、地域自治体と協働で研究が進められています。



【さわもと じゅん】

1975年、京都大学大学院工学研究科修了。工学博士。1975年に三菱電機株式会社に入社以来、産業用計算機の開発に従事。1982年～1984年の2年間、米国スタンフォード大学コンピュータサイエンス学科修士課程留学修了。2002年、東京電機大学理工学研究科博士後期課程に社会人入学。2005年学位取得。2006年4月よりソフトウェア情報学部教授。本学では、基盤システム演習、オペレーティングシステム論、専門英語Ⅲ、情報システム管理特論を担当。

農村地域を研究フィールドとして

●共通教育センター准教授 劉 文静

「意外にも中国の伝統文化や地域社会は、日本人にあまりよく知られていません。言語を学ぶ機会に、本当の中国を知ってもらいたいと思っています」

中国語を指導する劉准教授は、中国河北省の出身。自身が実際に母国で集めた資料や写真などの「生きた情報」を、授業で積極的に提供しています。それは、言語がその国の文化や社会を理解するための手段であり、文化や社会を理解しなければ、生きた言語、活用できる言語を習得することはできないと考えているからです。

劉准教授の専門研究領域は地域社会学。その研究フィールドは広く、日本、中国、ドイツなど。「地域のとらえかたは、いろいろありますが、院生時代から一貫して農村地域をフィールドとしてきました。国や地域が違って、研究テーマの軸となる自身の考え方や問題意識は、昔も今も

変わっていません」

変わったのは、客観的な視点なのだと劉准教授は言います。それは、ヨーロッパにいたりアジアを客観的に見ることで、日本にいたり中国を客観的に見ることでできるということです。劉准教授は、様々な国や地域を自らの足で訪ね歩くことで、社会学者として比較研究する視点が養われたのだと実感しています。

劉准教授の客観的な視線は岩手にも注がれています。近年、岩手県内の農産物直売所の販売活動を調査研究しました。経済的な側面だけでなく、「生産者の主体性」に焦点を当て、リーダーシップは誰がとったのか?どのような出発点から組織化に向かったのか?どんな社会構造があったのか?など、生産者一人ひとりに聞き取りを行う地道な作業を経て論文にまとめました。



【りゅう ぶんせい】

1999年、東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。博士(情報科学)。2004年、岩手県立大学総合政策学部助教授。2006年より共通教育センター准教授。専門研究分野は地域社会学。主な研究テーマは、アジア地域における地域発展と環境問題、21世紀東アジアにおける農村-都市関係の再編、地域住民ネットワークと地域自治に関する日中比較研究など。担当科目は、中国語、異文化理解論。著書に、「中国農村の共同組織」共著(御茶の水書房)、『農産物販売組織の形成と展開』共著(御茶の水書房)、『再訪・沸騰する中国農村』共著(御茶の水書房)などがある。

夢を生きる 卒業生の今を知りたい CARRIER MESSAGE

とにか今今はスキルアップが目標

ニチコン岩手株式会社 高橋奈津子さん
●盛岡短期大学生活科学科 [平成20年3月卒]

「当社は、あらゆるエレクトロニクス機器に不可欠な電子部品であるコンデンサの開発から製造を手がけ、台湾、香港、中国、オーストリア、アメリカに現地法人を有するグローバル企業です。台湾や香港など海外からの電話応対をするときなどは、グローバル企業にいるんだなと実感するときですね」

担当する技術部技術課技術係としての職責は、まわりの仕事があまくよくようにフォローすること。残業時間の管理、書類リストの管理、ユーザーから要求のあった製品の信頼性に関わるデータを集め、その精査・検証をサポートしています。

電子部品の専門知識を持たない高橋さんにとって、3ヶ月間の社員教育は緊張の連続だったといいます。

「多様な製品の違いをとらえる学びの時間は今後も続きます。お客様が求めることを理解する能力を身につけることが目下の目標です」という高橋さんを支えているのは、世代を越えてアドバイスを惜しまない職場の先輩たちです。



仕事も人生も楽しむ人でありたい

社会福祉法人愛育園(保育士) 八重柏 陽子さん
●社会福祉学部 [平成20年3月卒]

短大国際文化学科から福祉臨床学科へ編入学し保育士となった八重柏さんは、自身が受けた感銘を素直に人生の進路選択へと結びつけることができた人です。

八重柏さんに、保育士になると決意させたのは、いわてこどもの森や学童保育での泊まり込みで参加したボランティア活動でした。もっと子供たちと一緒にいたい。子供たちの成長を見守りたいと思うようになりました。やがて、愛育園が取り組む「手づくり絵本」に出会います。

「愛育園の絵本には、絵が好きだった私をひきつける魅力がありました。絵本製作の取り組みは、表現・人間関係・環境などの領域の実践の場として意味があります」という八重柏さんは、絵本製作の作業過程や子供の発想の豊かさにふれる現場が楽しいのだといいます。

日々奮闘の毎日の中で、八重柏さんは、子供をよく見て、ほめて、認めてあげる、声をかけてあげることを心がけています。また、自分の中にたくさんの引き出しをもって、仕事も人生も楽しむ人になりたいと考えています。そして、やがては子供たちをつつみこむ豊かな愛情をもつ人になるということを目指しています。



人事情報

●退任(平成21年3月31日付)

副理事長兼学長 谷口 誠

●就任(平成21年4月1日付)

副理事長兼学長 中村 慶久

●退職(平成21年3月31日付)

社会福祉学部/教授 長山 洋
 社会福祉学部/教授 ラジエンドラン・ムース
 総合政策学部/教授 由井 正敏
 盛岡短期大学部/教授 岩根 敦子
 総合政策学部/准教授 牛山 素行
 総合政策学部/准教授 篠木 幹子
 盛岡短期大学部/准教授 吉岡 美子
 宮古短期大学部/准教授 稲場 建吾
 看護学部/助教 角川 志穂
 看護学部/助手 田村 晃
 ソフトウェア情報学部/客員教員 ソフトウェア情報学部/客員教員 小泉 真也
 ソフトウェア情報学部/客員教員 廣井 富
 研究・地域連携本部/客員教授 渡辺 民朗
 研究・地域連携本部/助手 菊地 紀江
 教育・学生支援室/健康サポートセンター相談員 三越沙央理

●採用(平成21年4月1日付)

看護学部/教授 森 一恵
 社会福祉学部/准教授 藤野 好美
 総合政策学部/准教授 西出 順郎
 社会福祉学部/講師 庄司知恵子
 総合政策学部/講師 金子 友裕
 共通教育センター/講師 コルネリア ルプジャ
 宮古短期大学部/講師 松本 力也
 看護学部/助手 三上 千佳子
 看護学部/助手 橋本 彩加
 看護学部/助手 水野 仁子

●昇任(平成21年4月1日付)

総合政策学部/教授 岡田 寛史
 総合政策学部/教授 倉原 宗孝
 総合政策学部/教授 山田 一裕
 盛岡短期大学部/教授 千葉 啓子
 宮古短期大学部/教授 宮沢 俊郎
 盛岡短期大学部/准教授 内田 信平
 ソフトウェア情報学部/講師 市川 尚

●退職・転出 前職 氏名[転出先](平成21年3月31日付)

事務局長 古澤 眞作 [退職]
 事務局長代理 久保 協一 [退職]

経営企画室/経営企画課長 高橋 進
 [保健福祉部/長寿社会課/介護福祉担当課長]
 経営企画室/主査 鎌田 伸二
 [県南広域振興局花巻総合支局/農林部/主任主査]
 総務財務室/総務課長 菊池 透
 [岩手県教育委員会事務局/教職員課/人事給与担当課長]
 総務財務室(人事給与)/主査 正部家 忍
 [選挙管理委員会事務局/主任]
 総務財務室(職員福祉)/主査 佐々木 哲
 [東京事務所/主査]
 総務財務室(予算経理)/主査 菊地 教文
 [総務部/予算調製課/主査]
 総務財務室(予算経理)/主事 浅沼 芳恵
 [一関児童相談所/主事]
 教育・学生支援室/教育・学生支援室長 小原 一信
 [監査委員事務局/監査第二課総括課長]
 教育・学生支援室/学務課長 清水 一夫
 [総合政策部/広聴広報課/情報公開課長]
 教育・学生支援室(学生支援)/主査 高橋 俊博
 [総合政策部/調査統計課/主査]
 教育・学生支援室(教務企画/留学生交流)/主査 吉田 耕
 [岩手県立農業大学校/主査]
 教育・学生支援室(教務管理)/主査 八重樫弘喜
 [教育委員会事務局/教育企画室/主査]
 教育・学生支援室(教務管理)/主査 高橋 克徳
 [教育委員会事務局/学校教育室/主査]
 教育・学生支援室(就職支援)/主査 荒澤 順子
 [商工労働観光部/雇用対策/労働室/主査]
 教育・学生支援室(入試)/主査 佐藤 裕行
 [県南広域振興局一関総合支局/地域支援部/主任]
 研究・地域連携室/研究・地域連携室長 小山 康文
 [総合政策部/政策調査監]
 研究・地域連携室/主査 佐藤 光勇
 [商工労働観光部/科学・ものづくり振興課/主査]
 宮古事務局/主幹 田鎖 範夫
 [環境生活部/環境生活企画室/主任主査]
 宮古事務局/主事 金澤真佑美
 [保健福祉部/岩手県立宮古高等看護学院/主事]

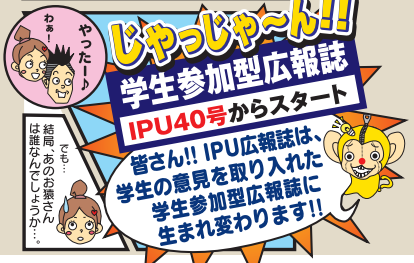
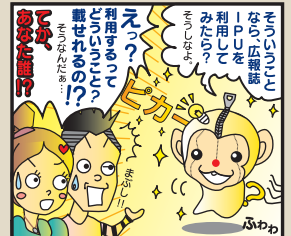
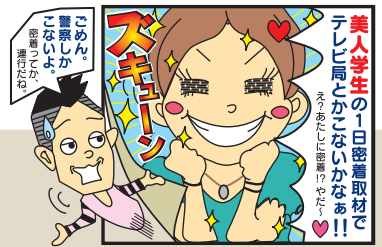
●転入 所属・職 氏名[前職](平成21年4月1日付)

経営企画室/経営企画室長 熊谷 正和
 [総務部/予算調製課/主幹兼調査担当課長]
 経営企画室/経営企画課長 山崎 隆
 [商工労働観光部/経営支援課/主任主査]
 経営企画室(計画・評価)/主査 藤村 真一
 [商工労働観光部/経営支援課/主査]
 経営企画室(企画)/主事 小原 哲也
 [商工労働観光部/雇用対策/労働室/主事]
 総務財務室/総務財務課長 保原 良和
 [議会事務局/議事調査課/議事担当課長]
 総務財務室(総務)/主事 高橋 昭彦
 [二戸地方振興局/企画総務部/主事]
 総務財務室(会計監理)/主査 千田 雅彦
 [医療局/管理課/主査]

総務財務室(会計監理)/主事 船本 祐子
 [議会事務局/総務課/主事]
 教育・学生支援室/教育・学生支援室長 高橋 一夫
 [東京事務所/総務行政部長]
 教育・学生支援室/学務課長 高橋 一教
 [教育委員会事務局/教職員課/人事給与担当課長]
 教育・学生支援室(学生支援)/主査 玉川 房子
 [林業技術センター/主任]
 教育・学生支援室(教務/国際交流)/主査 二宮 美紀
 [議会事務局/議事調査課/主任]
 教育・学生支援室(教務/国際交流)/主査 中野 綾
 [環境生活部/青少年・男女共同参画課/主任]
 教育・学生支援室(就職支援)/主査 菅原 則彦
 [宮古地方振興局/企画総務部/主事]
 研究・地域連携室/研究・地域連携室長 宇部 真一
 [大船渡地方振興局/企画総務部長]
 研究・地域連携室(研究・地域)/主事 阿部 幸子
 [県南広域振興局/経営企画部/主事]
 宮古事務局/主幹 菅原 正人
 [監査委員事務局/副主任]
 宮古事務局/主査 森合 恵子
 [宮古地方振興局/保健福祉環境部/社会福祉主事]

●採用(平成21年4月1日付)

経営企画室(企画)/主事 高橋 里
 総務財務室(総務)/主事 西島 雅花
 教育・学生支援本部/特命課長 臺 徹
 教育・学生支援本部/特命課長 川村 祥平
 教育・学生支援本部/特命課長 川原 利夫
 教育・学生支援室(入試)/主事 長岡 一美
 教育・学生支援室(図書)/図書事務員 伊藤美希子
 教育・学生支援室(健康サポート)/心理相談専門員 今 ゆかり
 研究・地域連携室(研究・地域)/主事 鎌田恵理子



平成20年度 学生表彰 (学長特別賞)

優れて高い志を讃えます!

看護学部

●3年 萬美紗子(社会活動)
 花巻市内で発生した緊急事案において、救命処置を行い、花巻市長から花巻市消防協力者表彰を受けた。

ソフトウェア情報学部

●4年 大葛広和(研究活動)
 情報処理学会「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」において、最優秀学生論文及び優秀プレゼンテーション賞を受賞。

総合政策学部

●3年 太田好乃(研究活動)
 第27回日本自然災害学会学術講演会において、平成20年度学術発表優秀賞を受賞。

●3年 小方恵実(課外活動)
 第25回土光杯全日本学生弁論大会において「食を生かす地域づくり」発表し、優秀賞(ニッポン放送杯)を受賞。

●4年 吉田亜里紗(研究活動)
 査読論文が2件、学会口頭発表が4件と、学

部生でありながら発表が多数あり、優れた研究成果を挙げたと認められる。

ソフトウェア情報学研究科

●修士1年 大内優子(研究活動)
 第70回情報処理学会全国大会において「家庭用小型MRIの実現に向けた超低磁場MRI画像からの脳疾患検出」を発表し、優秀賞を受賞。

●修士2年 米田信之(研究活動)
 情報処理学会「人文科学とコンピュータシミュレーション2008サービスタ向のデジタル技術」において、学生奨励賞を受賞。

●修士2年 佐藤洋介(研究活動)
 国際学会で9件、国内学会で7件等論文発表が多数あり、研究業績が極めて顕著である。

IPU DOUBLE DUTCH CIRCLE 「ROPE A DOPE」

●代表 太田卓(課外活動)
 DOUBLE DUTCH DELIGHT NORTH '08において、優勝という優秀な成績を修めた。